

## 給特法再改定を！署名35,441筆を提出

「せんせいふやそう」「このままでは学校がもたない」の思いを国会へ

6月11日、東京の衆議院第2議員会館において、「すべての教職員の処遇改善と長時間過密労働解消のための請願署名」の提出集会が行われました。

集会には、現地参加27人、オンライン23人と合わせて50人の参加がありました。

檀原委員長は主催者あいさつで、昨年の給特法改定について、公立学校教員の時間



紹介議員(写真右から2,3,4番目)に署名を手渡す集会参加者

外勤務を労働時間と認めない法の矛盾が温存され、教職員の分断につながる「主務教諭」も創設されるなど「学校の苦しさは解消されない」と批判。「ゆきとどいた教育を実現する一層のとりくみを進めよう」と呼びかけました。山元生権局長の情勢報告の後、連帯のあいさつで、全労連公務部会・公務労組連絡会代表委員で国公労連委員長長の浅野さん、新日本婦人の会の松澤さんからあいさつがありました。

この署名の紹介議員は衆参あわせて22名ですが、提出集会には日本共産党の畑野君枝衆議院議員、吉良よし子参議院議員、山添拓参議院議員の3名が駆け付け、それぞれからあいさつがありました。

そして、会場の参加者から署名を手渡し、私たちの思いを預けました。署名は、3万5441筆でした。

全教広島からは、オンラインで中本書記長が参加。5・

春闘県教委交渉  
7月9日(木)  
15:15



会場壁面に映し出された広島のとりのくみの報告

20全国一斉定時アクションで、現場の願いをSNSに投稿するとりくみで、60の投稿の半数以上が未組合員だったことを紹介し、私たちの訴えは多くの教職員の共感を呼ぶ。引き続き「せんせいふやそう」「このままでは学校がもたない」「給特法の再改定を」の世論を大きく広げていこうと発言しました。広島での署名集約は829筆でした。

あらくさ

私は、生徒指導主事の仕事をしています。先日、泣きながらお母さんと登校してきた低学年の男の子がいました。校門でその子を迎えると、お母さん曰く、ここに来るまでに、6年生の女の子二人が、「どうしましたか。連れていきましょか？」と声を掛けてくれたんだそうです。その子たちの名前はわからないということでしたが、お母さんは感激されていました。

私は、学校全体に知らせようと思い、全学級の担任の先生にこの出来事をしたためた「学級指導をお願いします」という用紙を配布しました。翌日、6年生の担任の先生から声を掛けられました。「H先生、ありがとうございます。昨日読み上げたら、うちのクラスの子たち、すごく喜んでました」とのこと。

普段「学級指導をお願いします」の用紙に書かれている内容は、子どもたちを叱るようなかわゆる「指導」ばかり。時にはこういう褒め内容もあるべきだな、と思えた出来事でした。イソップ童話の「北風と太陽」だってそう言ってますしね。

(H)



福山での講演会の様子

# 県立高統廃合にまつた!

## 福山・広島で講演会

### 新署名スタート!!



講師の山本由美さん

6月6日に福山、7日に広島で、「広島県の公立高校を守る会」主催の「全国で進む新たな学校統廃合計画」広島県の実施計画に抗して」と題した講演会が開催され、東京自治問題研究所の山本由美さんが講師を務めました。参加者は福山が32人、広島が52人でした。

#### ■背景は国の財政誘導

山本さんは、広島県教委が推進する統廃合計画は、国の長期計画と財政誘導によるものであると指摘されました。具体的には、「高校教育改革に関する基本方針(ブランドデザイン)」や「ネクストハイスクール構想」といった、高校から大学まで一貫した教育改革や、「産業のための人材づくり」を目的とした国の教育方針が背景にあります。

県教委が立てた計画は、まさに国言いなりのものであり、それによって国から62億円を受け入れることとなります。そして、6月4日に県教委は、その62億円を4つの拠点校に約15億円ずつ配分することを公表しています。住民への説明や

合意なしに統廃合、「高校改革」を進めようとする県教委の姿勢はあからさまです。

#### ■新署名広げ

##### 広範な県民との共同を

福山市内では、定時制や通信制の高校を廃止し、松永高校へ統合する計画が進められていますが、少人数教育や丁寧な指導を行う学校の役割が奪われることに対し、参加者からは公教育の本来の役割を問い直すことが必要だとの声が上がりました。また、他の参加者は、教育の目的は人材育成だけでなく、子どもたちの豊かで健やかな成長を保障することだとし、反対運動や署名活動、教職員の交流を通じて声を上げていく必要性があるとの感想を寄せました。国の政策の背景や新自由主義の影響についても理解を深め、住民の納得や丁寧な説明が必要との声が多く寄せられました。今後、新たな署名にとりくみつつ、県教委の県民無視の姿勢をただす運動を、広範な県民との共同で大きくひろげることが求められます。

# 平和教育への介入ゆるすな!

## 文科省の「見解」に抗議

### 3度の街頭宣伝で教育の自由守れと訴え



沖縄慰霊の日の街頭宣伝で発言する中本書記長

沖縄県辺野古沖で小型船が転覆し、修学旅行中の同志社国際高校の生徒ら二人が死亡した事故で、文科省は5月22日、この平和学習が教育基本法14条2項に違反するという異例の「見解」を出しました。

学校行事での安全管理上の問題が厳しく問われるのは当然です。同時に、教育内容に対する権力的介入は抑制的でない限りなりません。そもそも、主権者を育てる上で政治教育はきわめて重要だというのが教育基本法14条の立場です。2項における制限は「特定政党の支持・反対」に関わることに限定されています。

辺野古新基地問題を学ぶことは、特定政党の活動ではなく、沖縄の、先の戦争で捨て石にされた歴史や、米軍基地が集中するがゆえの苦難の現状を理解するための重要な学びです。実際、県民投票では約72%が新基地建設に反対しており、これは地域の現実そのものです。今回の文科省の姿勢こそ、不幸な事故に付けこみ、辺野古新基地問題を含む、安全保障問題を学ぶ平和教育に、制約を加えようという不当な介入です。

中本書記長は、6月17日の憲法宣伝、18日の県議会前宣伝、23日の沖縄連帯宣伝でこの問題をとりあげ、文科省の「見解」は学校での平和教育、政治教育の委縮を招くものとして断固抗議し、教育の自由を守ることの重要性を訴えました。

# 3支部で定期大会開催 新年度の運動を連帯してすすめよう!

## 市教組(全教)

つながりを力に  
教育の本来の姿を取り戻そう



全会一致で議案を採択

5月30日に広島のロードビルで、第80回市教組(全教)の定期大会が開催され、オンライン参加も含めて合計43名が参加しました。執行部からは「えがお署名」、夏に向けての平和・核廃絶を求める運動などの提起がありました。討論には9名が参加し、仲間を増やしたうれしい報告、市教委の施策に振り回される現場の混乱などの発言がありました。

大会の中では、国連本部で行われたNPT再検討会議に参加し



た全教広島支部副委員長長の報告も行われ、市民運動の重要性や労働組合の役割について学びました。また、ママダニ市長誕生や労働組合の集団的役割についての議論もあり、労働組合の意義を再認識する内容となりました。

閉会あいさつで山本委員長は、「多忙な中でも声をかければ応じてくれる同僚がいる。対話を深め、仲間を増やし、働きやすい職場づくりをめざして運動を進めよう」と述べました。



退職される方を囲んで

## 海田支部

「戦争する国づくり」許さず  
「憲法守れ」の声あげよう

6月13日に海田支部は今年度の定期大会を開催し、18名が参加して久しぶりの交流を楽しみました。

武本支部長は、戦争の危険が高まる中で「教え子を戦場に送るな」「憲法守れ」の声を改めてあげようと呼びかけました。大会では退職した組合員への感謝セレモニーが行われ、長年の活動に感謝の意を伝えました。県本部長からは中本書記長が出席し、「働かせ放題」の問



あいさつに立つ武本支部長

題について報告。議題では、昨年度の活動報告や予算案の審議が行われました。休憩後、高校連絡会の本間先生から高市政権の憲法改悪の危険性についてのミニ講演もありました。討論では、通級学級の改善や学校現場の課題、地域との連携について意見が交わされました。厳しい現場ではありますが、参加者は意識を高め合い、今年度の活動を力強くスタートさせることができました。

## 福山支部

先生の自由が  
子どもの自由を保障する

全教福山は、6月13日に川口東交流館で第38回定期大会を開催し、9人の参加者とともに一年間の活動の振り返りと新たな運動方針を確認しました。小林委員長は、職場の多忙な状況や憲法改悪への対抗運動の必要性を強調し、結成時の決意を大切に進めていくことを呼びかけました。大会では、職場の過重労働や暴力行為、保護者対応の問題など、現場の厳しい実情が交流され、教師たちの疲弊や仕事の増加に対す

る課題が共有されました。また、勤務時間や部活動の指導時間の改善、管理職による記録改ざんの問題、教育の自治と自由の重要性も議論されました。さらに、不登校児童への対応や子どもたちの自主性・安心のために、教師のチームワークや子どもたちの成長を見守る姿勢の大切さも語られました。大会は少人数ながらも充実した交流の場となり、今後はより多くの仲間の参加を目指す決意も示されました。



教育・職場をめぐる情勢の交流



# ともに学び、ともに遊び、つながりを実感

## 障教部 わいわいトークカフェ

4月25日、広島市西区民文化センターで、5月23日、広島市東区民文化センターで、障教部わいわいトークカフェを行いました。4月は12名（未組1名）、5月は9名の参加でした。

4月は算数教材の紹介、特別支援学校寄宿舎の課題、中学校での実践紹介など、グループに分かれて、話が盛り上がりました。後半は、障教部の総会を行いました。例年よりも参加者が多く、盛会でした。



4月（写真上）と5月のわいわいトークカフェ

5月は、算数教材の紹介！子どもに戻った気分て模擬授業を体験しました。子どもがつまずきそうなところやそれを乗り越えるアイディアなどで盛り上がりました。

## 福山支部

## 尾道三山を歩く会



浄土寺山山頂で

全教福山は5月23日『尾道三山を歩く会』を行いました。曇天ながら心地よい涼風の吹く絶好の日になり、7人の仲間の参加で楽しい1日を過ごしました。

2台の車に分乗して尾道へ。9時の浄土寺を皮切りに、浄土寺

山山頂からの見事な眺望に感激しつつ、11時30分、最終目的地の千光寺山山頂へ到着（訳あって西國寺山山頂を断念したため、『尾道三山』になりました）。木陰でソフトクリームをほおばりながら、人気のパン屋さん組とお弁当組に分かれて楽しい昼食タイムを過ごしました。日ごろの喧騒を忘れ、静かな山道を歩きながら心身をリフレッシュすることができました。

## 佐伯支部 平和公園碑めぐり

6月21日、佐伯支部は平和公園碑めぐりを行いました。6人が参加し、宮内小の上田さんの弟さんが作られたペナント（下の写真）をつけて回りました。ガイドの川野さん（市教組（全教）元女性部長）の丁寧な説明で初めて知ったこ

## 教育のつどいin愛知

「教育のつどい2026」が8月21日～23日にかけて愛知で開催されます。全教広島からは下記の5名がレポート参加予定です。

21日（金）13:00～15:30 開会全体集会  
16:30～19:30 教育フォーラム  
22日（土）9:30～16:30 分科会  
23日（日）9:30～16:00 分科会

### ■県内からのレポーター

佐伯 今村 節子さん（音楽教育）  
広島 後藤 恭子さん（音楽教育）  
広島 坂根 真実子さん（音楽教育）  
広島 和田 健太郎さん（障害児教育）  
福山 小林 克己さん（子どもの人権）

### ■オブザーバー参加募集中です

開会集会と教育フォーラムはオンライン参加できますが、分科会は現地参加のみです。現地参加を希望される方は、全教広島まで連絡してください。

（7/15（水）まで）

### ■くわしくはチラシ参照。



とも多かったです。時間が足りなくて、2時間があっという間に過ぎました。



原爆ドーム前で

「集いあい促進費」から補助があります。分会・支区・支部などで楽しい企画を！

## 7月からの新キャンペーン（～9月末）

## キットeことあるよ キャンペーン part 1



（eギフトチケットイメージ）

①加入者・紹介者にサーティーワンアイスの  
eギフトチケットをプレゼント

②2月にプリンスホテル  
ランチツアーにご招待

ふるってご参加を！

